

病床での子規 その2

# 子規の絵

## 絵の具を使って写生

子規は、子どものころから絵を描くことが大好きでした。友達が絵を習っていることを知り、自分も習いたいと母親にたのみましたが、許してもらえなかったこともあります。

子規は32才のころ、画家の中村不折に、そのころではめずらしかった絵の具をもらいました。それから絵をよく描くようになりました。

子規は起き上がることができないので、寝たまま描いていました。くだものや草花など、小さくて色のきれいなものをさがしては、それを枕元に置いて写生しました。

絵を描けるのは、薬を飲んで病気の痛みがやわらいだ時だけでした。しかし、できあがるとうれしくて、また次の日も絵を描きました。絵の具をまぜあわせていろいろな色を作るのも楽しかったようです。

寝たきりの子規にとって、絵を描くことは、大切な楽しみのひとつだったのです。



▲子規が描いた草花の絵

寝たきりになっても  
絵を描き続けて  
いたんだね。



▲中村不折が描いた子規の絵。寝たまま、絵を描いています。

※このシートでは、明治1年=子規1才、明治2年=子規2才...としています。

## 子規の絵を見てみよう

子規は身の回りのものを題材にして、たくさんの絵を描いています。また、赤色が好きだったので、絵を描く時もよく赤色を使っていました。ここでは、その一部を紹介し、展示しているものもあるので、さがしてみてください。

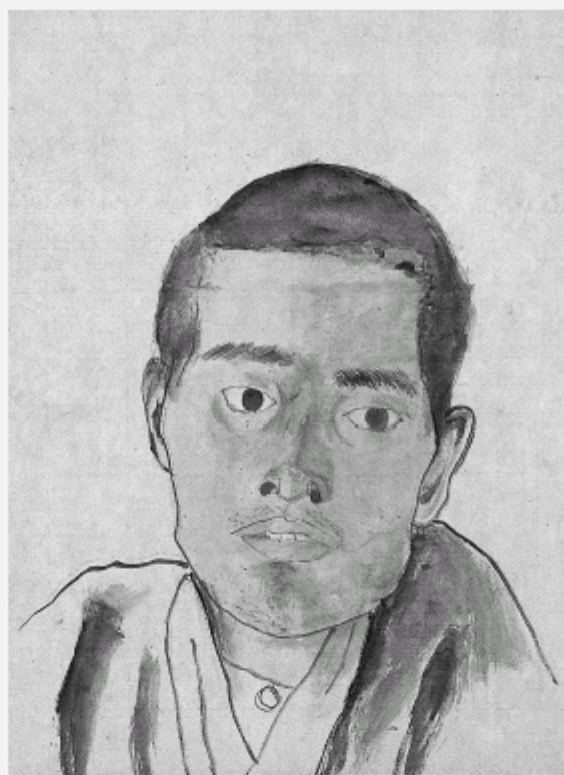
くだものや草花やおもちゃなどいろいろな絵を描いているね。



▲野菊「草花帖」(複製)より



▲西ノ市ノお多福「玩具帖」より



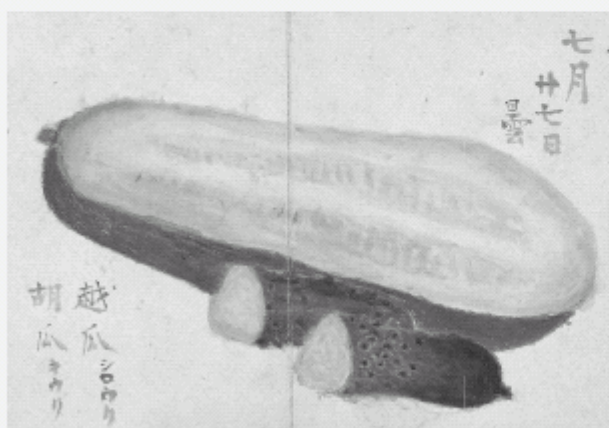
▲自画像



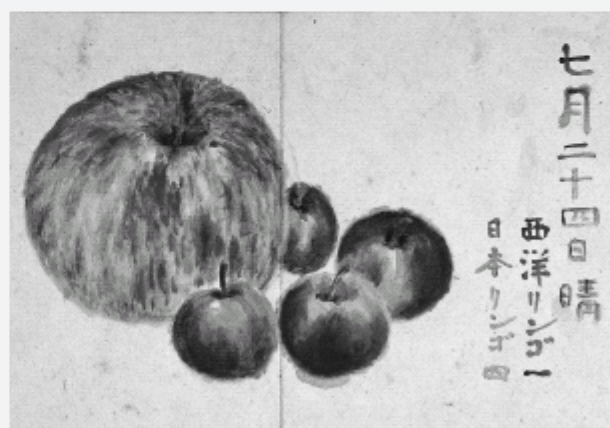
▲朝顔「草花帖」(複製)より



▲紙人形「玩具帖」より



▲シロウリ・キウリ「菓物帖」(複製)より



▲西洋リンゴ・日本リンゴ「菓物帖」(複製)より